

事業所における自己評価結果

公表日 2026年 1月 19日
事業者名 児童発達支援 すまはびパーク曳舟

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		・当施設の訓練室は約 43.9m ² あり、設置基準である 30m ² のおよそ 1.5 倍の広さを用意しています	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		・人員配置基準および加算要件を満たす配置に加え、児童の特性等にあわせて追加で職員を配置しています	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>			・引き続き、通所される児童の特性にあわせた環境整備を進めてまいります
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		・24時間換気システムを活用しています ・アルコールや次亜塩素酸水等を用いた掃除を実施しています	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		・必要に応じて個室(1箇所)を活用しています	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		・PDCAサイクルが回るよう、ミーティングを毎日行っています ・参加できなかつた職員も内容を確認できるように、書面でも共有しています	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・保護者との面談の機会を定期的に設けています	・評価表の公表により、多様な意見を把握できるようにします
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		・職員ひとりひとりと定期的な面談の機会を設けており、適宜業務改善につなげています	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		・現在は利用者と社内の自己評価のみですが、今後実施を検討します
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		・オンデマンドで受けられる研修機会を提供しています ・定期的に、職員研修としてまとまった時間を確保しています	・より専門性の高い内容を提供している外部研修を受ける機会の提供を検討します ・職員自身が専門性を高めるための研鑽を奨励します
支援計画	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		・ウェブサイトでいつでも確認できるようにしています	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		・当施設でのアセスメントだけでなく、相談支援事業所や発達支援センターでの記録も可能な限り活用し、より一貫性のある支援計画を作るようにしています	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		・支援ミーティングを通して、児童情報や支援計画を全職員に共有、議論するようにしています	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		・療育支援システム「ディロボ」を通して、全職員がいつでも内容を確認できるようにしています	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>			・より理解、浸透が進むようなツールやフォーマットを改善してまいります

事業所における自己評価結果

公表日
事業者名

2026年 1月 19日
児童発達支援 すまはぴパーク曳舟

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・日々職員間でプログラムについて討議しており、担当が特定の職員に偏らないようにしています	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・日々職員間でプログラムについて討議しています ・どれくらい新しい取り組みを立案、実行(トライ)できたかを、人事評価制度に組み込んでいます	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			・個別対応、個別支援のニーズが相対的に高い利用者についても、より対応できるように体制を整えてまいります
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・毎日朝礼を行い、職員間の認識あわせを行っています	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・毎日夕礼を行い、職員間の認識あわせを行っています	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・療育支援システム「ディロボ」に記録を残し、職員間で内容に関する議論を行うようにしています	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・定期的なモニタリングだけでなく、日々の支援のなかでも見直しや改善の必要が感じられた際には、迅速に討議、改訂を行うようにしています	
	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・職員間で協議、共有の機会を経て、当該児童のことを最も理解している職員が参加するようにしています	
	25 地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・利用者に関する最新の情報や状況を共有できるよう、特に障害福祉や保育の関係期間といつでも連携が取れるようにしています	
児童発達支援の実施	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・保護者の意向にあわせ、保育所等の先生との連携を取り、双方の見学や支援計画・支援内容の共有を行っています	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		・卒園～就学する利用者について、小学校や特別支援学校等との話し合いを行う予定です
	(28～30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
職員の研修・教育	質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				

事業所における自己評価結果

公表日
事業者名

2026年 1月 19日
児童発達支援 すまはぴパーク曳舟

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーパイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・利用者の支援の質を高めるために、随時発達支援センターの担当者とコミュニケーションを取るようにしています	
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		・今後、児童館や小学校等との連携を企画してまいります
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・サービス提供記録や公式LINE等を活用し、すまはぴパークでの様子やそれ以外の環境での様子を伝え合っています	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレンツ・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		・今後保護者会やご家族が参加できるプログラムや研修機会を提供できるよう、検討してまいります
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・説明の場以外でも、万が一わからないことが出てきた場合には、LINEや電話で相談できるようにしています	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・公式LINEやお電話、面談等でいつでもご相談に乗れる体制を設けております	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		・今後保護者会やご家族が参加できるイベントを実施できるよう、検討してまいります
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			・今後一部の職員だけでなく、すべての職員が利用者に適切に対応ができるようにしていきます
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・月次のおたよりを配信しています ・療育支援システム「デイロボ」により、写真とテキストで利用者の様子をわかりやすく伝えるようにしています	
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・利用者のプライバシーに配慮しながら、実施を検討してまいります
保護者への説明等					

事業所における自己評価結果

公表日
事業者名

2026年 1月 19日
児童発達支援 すまはぴパーク曳舟

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>			・訓練の実施内容や頻度、マニュアルの改訂について、都度議論、改善してまいります
	46 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>			
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>			
	48 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>			
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	50 子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>			
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>		・職員間ミーティングを通して、ヒヤリハットの詳細を共有、再発防止を議論するようにしています ・参加できなかった職員も内容を確認できるように、書面でも共有しています	
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>			・職員による不適切な行動が起きないよう、引き続き研修や周知等の機会を設けます
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	<input type="radio"/>		・利用者の生命や身体を保護するため、緊急を要する場合に、一定の条件下に行うことを職員の共通認識としております。	・職員による不適切な行動が起きないよう、引き続き研修や周知等の機会を設けます